



本会は、鎌倉中央公園の貴重な谷戸景観と多彩な動植物を保全するため、市民活動を実践していたメンバーが中心となり、行政との協働で立ち上げたものです。

…会員随時募集中!…

〒247-0066 鎌倉市山崎 1667 鎌倉中央公園管理事務所内 TEL/FAX: 0467-47-1164 木曜を除く 10時~16時
Web URL: <http://www1.ocn.ne.jp/~ya-yato/> E メールアドレス: ya-yato@arrow.ocn.ne.jp



10/7 稲刈り

鎌倉中央公園フェスティバル第2弾 (協働開催)

秋の谷戸まつり開催

11/25 (日) 10時~14時 (荒天中止) 野外生活体験広場

炊き出し (谷戸鍋・餅・ご飯) *お椀・箸の持参を!

→頒布券配布開始 11時 引換え 11時半

展示・紙芝居上演・頒布 (新米など)・体験コーナー



10/14いも掘り

今年も無事に収穫できて、おてんとうさまに感謝!

もくじ

☆各班からのお知らせ→2・3p ☆自然だより→4p☆ 谷戸往来→5・6p ☆体験学習→6・7p☆11~1月の日程表 (裏表紙)

農繁期も終わりに近づき、台風の被害も比較的少なかった今年の収穫は上々といえるでしょうか。それは、天候だけではなく、市民ボランティアとしての実力アップのおかげだろうと自負するこのごろです。まだ暑い盛りに、この谷戸を遊びや教育の場としている幼児から小学生までを指導する教員層の研修が繰り返され、成果をあげました。活用されてうれしいです (5・6p参照)。

各班からのお知らせ



田んぼ班

★11/3(土・祝) 籾干し ★4(日)、10(土) 籾干し・籾すり
★17(土)、18(日) 籾すり・精米



10/7 稲刈り

4日かかりで刈り取った「はさ」いっぱいの稲も、無事脱穀を終了しました。11月25日の秋の谷戸まつりで美味しい新米を味わってもらえるように、籾干し、籾すり、精米をがんばります。お楽しみに。今年はそれと並行して、畔の補修、田んぼの溝きりをする予定です。

田んぼの中に入っての作業になるので寒くなる前に終わりたいと思います。みなさん、もう一度田んぼ長靴の出番になりますので、よろしくお祈りします。



畑班

★11/4(日) 小麦の種蒔き・たまねぎの移植 ★11(日) 落花生の収穫・さつまいもの洞入れ
★18(日) たのくろ豆の収穫・吊るし干し ★25(日) さといも掘り・種芋の洞入れ

今年の夏は、猛暑続きで雨が降らず、谷戸の畑もカラカラになりましたが、後半にまとまった雨が降り、畑が潤い、野菜も元気を取り戻しました。そして実りの秋を迎え、ごま、こんにゃくいも、さつまいもの収穫を終え、11月に入ると落花生、たのくろ豆、さといもの収穫が続きます。一方、空っぽになった畑は、次の作付けの準備をし、さつまいも畑のあとには、すぐに小麦の種を蒔きます。昔から行なわれてきた二毛作です。自然の恵みと、先人の知恵と、みなさんのご協力があって、畑班はまわっています。柔らかな日差しの中で汗をかくのも気持ちのよいものです。



10/7 さといも畑の手入れ



雑木林管理班

★11/4(日)、23(金・祝) 雑木林の除間伐 ★11(日) 畑周辺の除間伐

夏から初秋にかけての草刈りシーズンが終わり、これからは雑木林手入れの本格活動となります。今シーズンは、だいが育ってきたコナラ、クヌギの苗木の移植にも取り組みます。

～参加者の声～

We start the morning in a field thick with brush. Everyone has selected their tools of choice, for some it is a hand held sickle, for others shears, arake, or possibly a gas powered machine.

First the cutting begins. The area is large, and each person knows where they fit best with the tool they have in their hand. After awhile, the buildup of what's been cut becomes the focus. And soon more people are raking and carrying then cutting. Eventually the area is cleared; we start to feel tired. Each person looks at the area cleared and feels comfort in the accomplishment. Breathing in the smell of work, I treasure the moment. (倉田 Rolnick Brian)



9/17 雑木林の下草刈り



農芸班

★11/30(金)たのくろ豆の殻出し ★12/25(火)たくわん漬け

味噌の原料となる「たのくろ豆」は、昔は田の畔（くろ）に植えられ栽培されていました。山崎伝来のたのくろ豆を継承していきたい、今年も美味しい味噌の仕込みができますようにとさまざまな想いを巡らせながら殻出しをします。谷戸まつりでお馴染みの谷戸なべは、このたのくろ豆の味噌で作られています。味噌作りは2/8(金)に予定していますが、殻出しの作業から参加すると山崎の谷戸の味噌をより深く味わっていただけたと思います。



10/12 石臼でそばの製粉



自然遊び班

9/16(日)「藍の生葉染め」を行いました。藍の葉をちぎって、布に入れて揉んで染液を作り、待つこと30分…白い絹布が、緑がかった青色に染まり、輪ゴムを取ると模様ができている！小さな子どももお母さんも大喝采。たくさんの親子が雨にも負けず楽しく活動してきました。



藍の生葉染め

年4回企画(11・12・2・3月)‘父と子の里山体験’が今年も始まります。のこぎりを使い、樹齢30年前後の木を倒す伐採体験は毎回行います。なかなかできない、ダイナミックな体験に親子でぜひご参加ください。

★11/18(日)父と子の里山体験「雑木林に親しもう」

秋から冬へかわるこの時期から山仕事は繁忙期となります。山仕事って何だろう？どうしてこの時期からなんだろう？初冬の雑木林を歩きながら、谷戸の山男おじさん達と雑木林に親しみましょう。

★12/9(日)父と子の里山体験「ドングリを植えよう」

雑木林にはいろいろな種類のドングリの木が生えています。苗木を育て、元の山に返すため、ドングリの実を畑に植えます。ドングリ博士からドングリにまつわる色々なお話も聞けますよ。



生態系保全班

★11/7(水)カヤネズミの調査、23(金・祝)野鳥入門



カヤネズミの巣

カヤネズミを知っていますか？体重10g前後で親指ぐらいのかわいらしいネズミです。ススキやオギなどのイネ科に巣を作ります。15年ぐらい前は稲刈りしていると巣を見つけることがありましたが、最近は少なくなりました。それでも今年は稲刈りの時に見つけたという喜ばしい報告もありました。この秋もがんばって探したいと思っています。また、秋から野鳥観察も始まります。初めての方でも野鳥を観察しやすい場所です。

★11/19(月)野草の種の観察

★12/19(水)野草苗の植え付け

★12/26(水)湿地の保全作業



植物育成班

日の光に銀色に光り、真っすぐ天に向かっていたススキの穂も、成熟し種は風に乗って飛んでいくようになりました。土手に咲くツルボも花から種へ変わり晩秋を思わせます。7月号でお知らせした野草畑のツルボの苗が15cmほどになりましたが、まだ細く花も咲きません。何年たつと花を咲かせるような株になるのでしょうか？じっくり育てていきたいと思っています。

今年も野草の種を取る季節がきました。野草畑で育て立派になった苗の植えつけをするのが楽しみです。



ツルボ

谷戸の自然だより

～谷戸の近況～

記録的な残暑で秋の野草の開花が遅れ気味でしたが、今年もツリガネニンジン、ワレモコウなど土手の花、ツリフネソウやミゾソバ、オギなど湿地の花が咲きました。昨年冬に湿地の手入れ（ツル植物などの除去、オギの刈り取りと萌芽促進）をした部分が復活し、保全作業の成果を確認できました。10月15日、シメという冬鳥を見ましたが、今までにない早い記録でした。

～台湾リス～

昔は人気者、今は悪者にされたのが台湾リスです。20年ほど前までは身近で野生（じつは台湾産の外来種）のリスが見られるのが観光客に人気で、餌付けもされていました。15年くらい前から数が増えるにつれてさまざまな被害が出始め、鎌倉市では13年前に「餌付け禁止条例」ができ、2005年には国の「特定外来生物」にも指定されました。被害で最も目立つのが、木の実や庭の果樹を未熟なうちにかじり落としてしまうことでしょう。最近では、熟したアケビの実がほとんど見つかりませんし、庭で果樹栽培ができなくなりました。樹木の皮をかじって枯らしてしまう被害が目立ちます。かつてはツバキやミズキ、最近ではケヤキ、カラスザンショウ、ハゼ、モミジの樹皮をかじる被害が目立ちます。長年観察した結果、木の実が少ない年の1月～2月に多発することがわかりました。木の皮の下にある形成層という部分に栄養があるので、ここを食べて栄養補給するようです。幹や枝をぐるりと一周してかじられると、そこから先は枯れてしまいます。電線をかじったり、カヤぶき屋根の家からカヤを単材用に持ち去ったり、建造物への被害も出ています。また、野鳥の巣を襲って雛や卵を食べてしまった例も報告されています。なぜ、ここまで増えてしまったのでしょうか？専門家によると一番の原因は餌付けと言われています。人間の与える餌は栄養価が高く、出産回数が増えるのだそうです。私は里山の放棄で常緑樹が増え、原産地の台湾の森と似てきたことが大きな原因と考えています。ここ数年、鎌倉とよく似た森林がある三浦半島や横浜市南部では急激に増えていますが、丹沢や箱根方面で増えてきたという話は聞きません。

1980年代の山崎の谷戸の林は、常緑樹があまり目立たず木も小さめで、源氏山公園周辺の林とは違って見えました。台湾リスも少なく野鳥の種類にも違いがあり、私にはその差がとても印象的で山崎の谷戸に通うきっかけになりました。鎌倉市全体の生態系を考えると、常緑樹や大きな木を減らして、明るい雑木林を増やすことも必要でしょう。台湾リスが増えた背景には、里山の環境変化もあるのではないかと感じます。

ホームページに「自然だより」
コーナーをアップしました

当コラムは、谷戸で季節を通して私たちを楽しませてくれる動植物をあたたかく見守り続けてきた生態系保全班のリーダーが、会員のイラストレーターによる素敵な絵と共に紹介しています。ホームページに過去全てをアップしましたのでご活用ください。

谷戸の裏方②

～ 台風の予知と予後 ～

天気予報で台風接近と聞いたら、事務局当番が谷戸の隅々まで見回り、畑の作物は倒れていないだろうか、野外活動作業場の屋根や、田んぼの柵は壊れていないだろうか、水路の水が広場にあふれていないか、園路は水浸しにならないか、点検を怠りません。公園協会と連携をとって対応し、来園者への影響が最小限にとどまるように努めています。





谷戸往来 谷戸往来 谷戸往来

NEW

市内の幼稚園教員の研修会を開催 8/27(月)

夏の分科会「鎌倉の自然を学ぶ」で、22園から49名の幼稚園教員が山崎の谷戸を訪れました。当会が講師役を務め、谷戸歩きと青空自主保育の紹介をしました。たくさんいただいた感想文の中から数点を抜粋します。《感想》★自分の足で歩いて、目で見て、肌で感じる経験をしたことがとてもよかったです。私自身が自然とたっぷり触れ合う経験をすることが、子どもたちのかかわりにも繋がってくるのだなと感じました。(鎌倉女子大幼稚園部 安田) ★今日は暑さを感じることなく過ごせました。それは里山の自然にあったのですね。木々の陰や、木が蓄えた水が山の斜面にしたたる場所、涼しさを感じる場所が多くあったこと。夏の園外保育にも来れると感じました。(西鎌倉幼稚園 牧野) ★先人のちょっとした所も無駄にしないという感覚で土手を使って作るカボチャが土手カボチャと知りびっくりした。自然は人の手が入って守る自然、里山で子どもたちが育つと知りました。(鎌倉しろやま幼稚園 河本) ★園外保育で何度か来たことがあり



りましたが、私たちが遊んでいた所は一部だったのだなあと感じました。また私たちが遊びを制限してしまっていた部分があったかもしれないと反省しました。(ひがし幼稚園 恩田) ★保育の中で子どもの遊びに手を出してしまうことも多いので、見守ることを大切に、子ども同士の関係を作れるように心がけていきたいと感じました。(片岡幼稚園 木下)

深沢小教員講座 8/28(火)

10名の先生が子ども達の田んぼの補助活動に訪れました。残暑が厳しくて汗だくになりながら、水路や畔の草刈り、子ども達が9月に土手の草刈りをしやすいようにカナムグラ取りをしました。《感想》●はじめて谷戸で草刈りを体験しました。大自然の中での作業は、とても気持ち良かったです。また、谷戸の自然についても、丁寧にご案内して頂き、とても勉強になりました。(2-3 澤田) ●草刈りをしたというよりカナムグラというツル植物と格闘したという感じでした。谷戸を守る大変さを改めて実感しました。(5-1 尾形) ●草刈りは、暑くて大変だなあと感じましたが、刈っていくうちに地面が見えてきて、達成感を感じる事ができました。(5-3 片山)



NEW

荒井沢緑営塾楽農とんぼの会訪問

9/30(日)、横浜市栄区荒井沢に広がる里山で、市民ボランティアによる畑の保全活動を長年続けてこられた同会を事務局員7名で訪ねました。組織や活動のあり方、作付けや堆肥などいろいろなことを教わり、大いに刺激を受け、お願いしてあった大麦の種を分けていただきました。今後の活動に生かしたいと思います。

市内の保育士講座開催 9/8(土)

残暑が厳しい中、市内13園13人の保育士の方が山崎の谷戸を訪れ、子ども達がよく遊ぶ水路の草刈りをしました。今年は半数が民間の保育園のうら若い方々でした。草刈り中も、トンボが産卵にやってきて、疲れをいやしてくれました。午後からは、「ここは子どもが自然と触れ合える公園だ」という話をしました。《感想》★里山を保全するという難しさも、草刈りをさせていただき実感しました。ルールを守りながら自然を感じ、子どもたちと楽しむ時間を増やしていく努力をしていきたいと思えます。(山崎保育園 古山) ★感心することがたくさんありました。特に野草をわざわざ育て、植えているとのこと。今までなにげなく見ていたものが、とても大切なものだということを知って、子ども達と来る時には、そのようなことも教えていきたいと思っています。(材木座保育園 大野) ★これだけの自然に触れられて、子どもが楽しくないはずがないと実感しました。機会があれば、子どもたちと思いっきり楽しみつつ、鎌倉の自然について、伝えていければと思いました。(稲瀬川保育園 廣中)